

## 銀賞

本当にそれいつもと同じ？

株式会社 デンソー 幸田製作所

外間 成之

「ピーピーうるさい職場だな」それが 17 年前人生ではじめて工場に勤務する事になった私の率直な感想でした。私は沖縄から期間従業員として就職し、半導体製品の検査を行う職場に配属されました。私も半導体という言葉は知っていましたが、身近な物ではありませんでした。この職場で扱う半導体はとても小さく 1 円玉程度の大きさで、しかも静電気に弱いことからオペレーターは、作業着の下に着る服も静電気に気を掛けなければならい程です。このようなデリケートな製品を機械に仕掛け検査し回収するのが初めての仕事でした。仕事のやり方を指導員から教わる中で初めに言われたのが、「設備がどのように動くのか観察してくれ」だった。私は「観察？作業を教えてくれるんじゃないの？」この指導員は私に教えるのが面倒くさくて、見て覚えろって事か！と思いました。ある時見よう見まねで設備を触ろうとすると、指導員からダメと注意されました。何？見て覚えろって事でしょ？と思ったが違いました。指導員が「設備を観察しろ」と言ったのは、「設備がどのように動いて仕事をしているのか、初めに正しい動作を記憶してもらう為」であった。今ならわかるが、当時の私は言ってる意味が理解できず何か分からないけど怒られたので黙って観察しました。それから作業も覚えオペレーターとなり任された工程で設備異常が発生しました。「止める・呼ぶ・待つ」を守りリーダーへ報告。担当保全員の方が設備の状況を確認する為にオペレーターである私に質問をしてきました。「この設備のアームの動作は今の速度で正常？それとも早い？遅い？」私は答えられませんでした。観察しろと言われてただ見ていただけで何も記憶していませんでした。その状況を見たリーダーが「通常よりかなり動作が早くなってるな、シリンダーのパッキンがダメかもね」リーダーと保全員との会話を聞いて何を言ってるか理解できませんでしたが、正直カッコイイと思いました。この人達はちゃんと設備の正しい動作を理解して、どの部品で不具合が発生しているか分かっているんだと思いました。設備はリーダーの指摘通りシリンダーパッキンの経年劣化だった為、交換して設備の異常は治り復帰しました。後からリーダーから「設備の正しい動作、稼働している時の音、設備内の汚れ、全てが設備か

らの悲鳴だからね。道で悲鳴が聞こえたら駆け寄るように設備の悲鳴を聞き逃さないようにしないと、設備が怪我しちゃうからね。そのために予防として観察し異常を見つけるんだよ」初めて予防する事が観察することと理解しました。そこからリーダーに憧れて、設備からの悲鳴を聞き逃さないように日々観察していると、設備からキーンと高い音がかすかだが聞こえてきました。近くにいた先輩に報告したが「聞こえる？普段もこんな音してるんじゃない？」と言われました。でも私はいつもと違う音がすることに違和感が拭いきれず、もう一度先輩を呼び止め絶対にいつもと違うと説明しました。先輩も「いつもオペレートしているお前がそこまで言うなら保全に確認してもらおう」と言ってくれました。保全員の方が来て「テーブルが回転する時にいつも違う高い音がする」ことを説明し、テーブルを調査してもらおうと芯の摩耗により軸ズレが発生してテーブルが擦れていました。保全員の方から、今の状態ならすぐに直せる。手遅れになる前に打ち上げてくれてありがとうと言ってもらえた。これが初めて設備からの知らせを見つけた異常兆候報告でした。私は「もっと設備を知りたい」「憧れのリーダーのようになりたい」と思いが強くなり社員登用試験に挑戦し正社員になる事ができました。今では指導する立場となり、観察の意味を正しくメンバーへ伝え、予防することで、いつも良い状態で設備が稼働できるように継続してます。「それ本当にいつもと同じ」と問いかけながら。